



2014年6月18日

報道関係者各位

慶應義塾

第 698 回三田演説会
若松 英輔氏(『三田文学』編集長)による講演
「コトバの形而上学 詩人哲学者井筒俊彦の起源」 6/24 開催

慶應義塾では、「コトバの形而上学 詩人哲学者井筒俊彦の起源」と題し、若松英輔氏による「第 698 回三田演説会」を 6 月 24 日(火)に開催します。

2014 年は、言語学者、哲学者、そしてイスラーム学者でもあった井筒俊彦(1937 年文学部英文科卒業)の生誕 100 周年にあたります。「知の巨人」と呼ばれた井筒は、イスラーム教の聖典『コーラン』の日本語訳を初めて刊行したことで知られています。各国の言語や文化に造詣が深く、卓越した語学力を有する彼は、常に時代や文化を問わず詩人たちの言葉の中に「形而上学」を見出してきました。

本講演では、古代ギリシアの歌人たち、松尾芭蕉、リルケ、マラルメ、ボードレール、プーシキンやアラブの詩に至るまで、井筒俊彦を貫く詩学の起源に迫ります。

是非、イベント欄への掲載、およびご取材をお願いいたします。

1. 開催概要

- (1) 日 時 : 2014 年 6 月 24 日(火) 14 時 45 分~16 時 15 分(開場 14 時 00 分)
- (2) 講演者 : 若松 英輔(わかまつ えいすけ)氏
(批評家、思想家、読売新聞書評委員、『三田文学』編集長)
- (3) 演 題 : 「コトバの形而上学 詩人哲学者井筒俊彦の起源」
- (4) 会 場 : 慶應義塾大学(三田キャンパス)三田演説館
東京都港区三田 2-15-45
- (5) 交 通 : JR 山手線・京浜東北線 田町駅下車(徒歩約 8 分)
都営地下鉄浅草線・三田線 三田駅下車(徒歩約 7 分)
都営地下鉄大江戸線 赤羽橋駅下車(徒歩約 8 分)
<http://www.keio.ac.jp/ja/access/mita.html>
- (6) 参 加 : 入場無料・申込不要(定員約 140 名)
座席は先着順です。満席の場合は立見または入場を制限させていただく可能性がございますので、ご了承ください。

2. 若松 英輔 氏 プロフィール

〔略 歴〕

1968年 生まれ

1992年 慶應義塾大学文学部文学科仏文学専攻卒業

〔受 賞〕

2007年 「越知保夫とその時代 求道の文学」で第14回三田文学新人賞評論部門当選

〔主な著書〕

『井筒俊彦 叡智の哲学』（慶應義塾大学出版会、2011年）

『神秘の夜の旅』（トランスビュー、2011年）

『内村鑑三をよむ』（岩波書店、2012年）

『死者との対話』（トランスビュー、2012年）

『魂にふれる 大震災と、生きている死者』（トランスビュー、2012年）

『池田晶子 不滅の哲学』（トランスビュー、2013年）

『岡倉天心「茶の本」を読む』（岩波書店、2013年）

『君の悲しみが美しいから僕は手紙を書いた』（河出書房新社、2014年）

『涙のしずくに洗われて咲きいづるもの』（河出書房新社、2014年）

『Toshihiko Izutsu Philosopher of WORD』（LTCB International Library Selection No.33, 2014）

3. 三田演説会について

三田演説会は、福澤諭吉を中心に小幡篤次郎、小泉信吉など10余人の義塾の先進者たちによって、演説、討論の研究錬磨の場として1874（明治7）年6月27日に発足しました。翌年、三田演説館が完成し、演説会は今回で698を数えます。スタイルや話題は変わっても、福澤諭吉の精神は時を超えて三田演説会に脈々と受け継がれています。

福澤は「演説とは英語にて『スピーチ』と云ひ、大勢の人を会して説を述べ、席上にて我思ふ所を人に伝えるの法なり」（『学問のすゝめ』十二編）と述べています。演説という概念はその当時の日本には存在せず、多くの聴衆の前で自分の意見を述べるという「演説」の実践のための具体的な方法が試行錯誤しながらの末に創造されました。経緯は『三田演説日記』などの記録に記されていますが、演説の練習を行うにあたり「決して笑ってはならない」と取り決めたというエピソードが「演説会」創始の苦心を端的に物語っています。

また、福澤は「演説」「討論」などの言葉も創り出しています。「演説」は「スピーチ」の訳語ですが、福澤の出身藩である旧中津藩で藩士が藩庁に対して意思を表明するための「演舌書」となるという書面に由来します。（「舌」という語句が俗的であったために「説」に換えたと福澤本人が述べています。）「演説」は福澤の造語ではありませんが、旧来の言葉に「スピーチ」という新しい意味と実体を与えたことに大きな意味があったとされています。さらに「ディベート」の訳語を「討論」と定め、「否決」「可決」などの用語が決められました。

* 本資料は文部科学記者会、新聞各紙社会部・文化部、イベント欄担当等に送信しております。

* ご取材に際しては、事前に下記までご一報下さいますようお願い申し上げます。

【本発表資料のお問い合わせ先】

慶應義塾広報室 山崎

TEL 03-5427-1541

Email m-koho@adst.keio.ac.jp

FAX 03-5441-7640

http://www.keio.ac.jp/